

千葉運行部を怒りの渦で包囲

8・29総決起集会に650人が結集

87. 9. 1
No. 2643

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二二（七二〇七）



スト権確立！水戸地本決起を武器に大反撃にたつぞ！

8・29総決起集会に650人が結集

（千葉市中央公園）
（8月29日）

いよいよ、スト権の圧倒的確立を武器にした実力反撃が始まった。八月二十九日、千葉市中央公園で動労千葉支援共闘会議主催により開催された「出向攻撃粉碎、動労千葉支援、8・29総決起集会」には、動労千葉、三里塚反対同盟、国労共闘、支援団体など六五〇名が結集し、日帝・中曽根、当局、動労革マル一体となった悪らつな出向攻撃に対し実力で反撃することを確認し、集会後、千葉運行部に対する怒りのデモを貫徹した。



出向攻撃を粉砕するぞ！
労働者の怒りを思いしれ

国鉄労働者とともに闘う —三里塚反対同盟—

十八時三〇分から開始された集会は、冒頭、司会者より「4・1から五ヶ月、国鉄労働者の怒りは脈々と蓄積されている。動労千葉は九一・三%でスト権を確立し、水戸では、動労水戸地本が丸ごと新組合を結成した」と力強く集会の開会が告げられた。

つづいて、主催者を代表して反対同盟・北原事務局長が挨拶に立ち、「いま、出向攻撃をむかえ全国の国鉄労働者は、動労革マル松崎の裏切りとベテンの中で闘いを展開している。三里塚も二期本格着工を目前にひかえ、秋から冬にかけての闘いが国鉄労働者の闘いとともに爆発しようとしている。国鉄労働者が決起したように三里塚も反戦反核の砦を守り勝利する」と車の両輪として共に勝利する

同盟から労働者が決起 —全金本山—

動労千葉を支援する労組、団体の発言にうつつり、まず、全金本山労組の中野書記長が挨拶に立った。「動労千葉の強制出向反対の闘いに断固連帯する。本山でも全金同盟から一人の労働者が『会社のいいなりになる組合ではどうしようもない』と復帰した。共に闘いぬこう」と闘いの前進を語った。

数年間の闘いが結実した —動労千葉—

つづいて、国鉄労働者の発言が行われた。最初に、動労水戸の福田書記長は、「動労水戸地本の大会では、権力が解散させようと躍気になっていた。水戸地本は、社員労、鉄輪労、当局の来賓を拒否し、地本は解散せず、鉄道労連脱退、新生『動労』を誕生させ、権力に庇護された城石は徹底的に弾劾された。動労総連合の切り開いた勝利を守りきる」と報告と決意を述べた。



運行部へ向けてどとうのごとく
進撃する動労千葉のデモ隊。

「九一・三%のスト権確立に感激し、中曽根の攻撃と闘い続けていることに感謝している」と挨拶した。

その後、支援団体の発言、さらに集会宣言を全体で確認し、団結ガンバロー三唱で集会を終了し、千葉運行部までのデモを行った。市民に新会社当局の悪業を訴え、怒りのシュプレヒコールを当局にたたきつけ、集会、デモを最後まで貫徹した。

がかけられた場合は絶対拒否の闘いを実力で闘いどる。革マルは『やつらと酒を飲むな』と反動的オルグをしているが、『俺の金で誰と飲もうと勝手だ』と下部から闘いが始まっている」と、高崎での状況を明らかにした。

国労共闘の吉野代表は「九月二日から国労大会には、国労四万のストライキで方針を訴え全力で決起する。水戸地本の決起は、鉄道労連が盤石でないことを明らかにした」と国労大会と鉄道労連解体へむけての決意を鮮明にした。

国鉄からの報告の最後に、動労千葉・中野委員長が挨拶に立ち「本日の集会は実にマトを得ている。①動労千葉が九一・三%でスト権を確立した ②動労水戸地本が鉄道労連を脱退し『動労』を結成した。数年間のわれわれの闘いが結実したということだ。今、組合とは何かがつきつけられている。組合とは、資本、権力と結託して労働者をいじめたりするのではなく、団結して闘っていくのが組合だ。労働組合に対する差別、不当な攻撃を加えるなら全員火の玉となって闘いを展開する。三里塚一沖繩、南朝鮮の労働者と連帯して闘う」と全体に訴えた。

その後、支援団体の発言、さらに集会宣言を全体で確認し、団結ガンバロー三唱で集会を終了し、千葉運行部までのデモを行った。市民に新会社当局の悪業を訴え、怒りのシュプレヒコールを当局にたたきつけ、集会、デモを最後まで貫徹した。

全組合員・家族の強固な団結組織破壊攻撃を粉砕せよ！